

# 北京市教育視察に参加して (11)

前回に続き、北京の「緑色出行」に伴う環境対策、交通事情についての報告です。



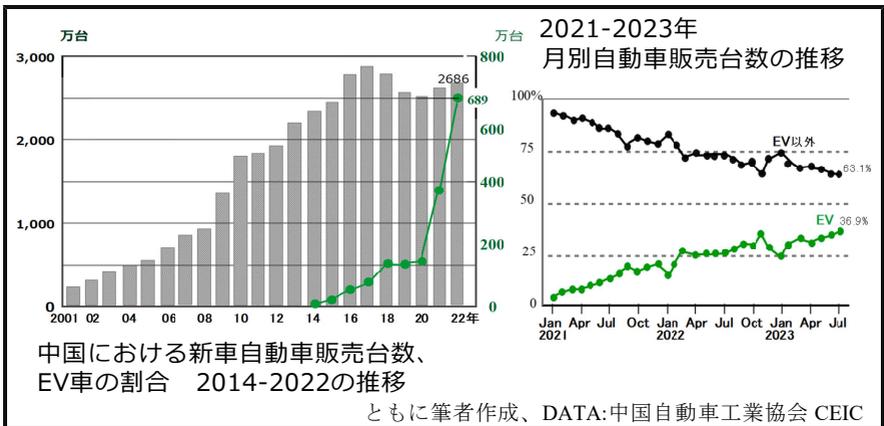
ガソリン車から NEV(または EV、新エネルギー車)へ切り替える「油改電」を進めて来た北京市では、NEV 車の販売台数は 2023 年に入って

テスラmodel Y、中国BYD製のEV

NEV の値下げや税優遇措置に後押しされて大きく伸びています。

中国での自動車販売台数と NEV の台数の推移を調べて見ると下図の通りで、2021-22 年の月別増加率を見ると、は前年比 93 %増の 688 万 7,000 台に達しています。NEV のうち、バッテリー式電気自動車 BEV が 81.6 %と圧倒しています。NEV の企業グループ別販売台数は、1 位が比亞迪 BYD で 186 万 2,000 台、2 位が上海汽車で 105 万 9,000 台、3 位がテスラで 71 万 1,000 台となっており、中国製 BYD とアメリカ製テスラの競合との競合が続いています。

また、中国のスマートフォン大手、小米集団(Xiaomi シャオミ、北京市)も高級セダンタイプの EV の開発を進めており、北京経済技術開発区に自動車生産工場の整備を進めているそうです。因みに、EV の投入に遅れを取っている日本車勢は苦戦を強いられており、私たちが北京にいる間にも三菱自動車中国からの撤退を表明しました。



こうした「脱炭素化」、グリーン消費、NEV 化の流れの中で、いま北京市内では再び自転車ブームが到来しています。自転車専用車線の整備、コロナ禍による公共交通機関の忌避、GPS の発達と活用が、これを加速したとも言われています。街中には自転車利用者が増えていますが、その多くが乗り捨て自由なシェアサイクル(共有自転車)です。

シェアサイクルの使用方法については、「北京観光局」に具体的な方法が記されており、年齢と身長制限もありますが、観光目的の短期滞在者でもパスポートなどの身分証明書とコピー、中国のオンライン決済アプリを持っていること、200 元のデポジットなどで借りることが可能で、日本と違ってどこでも乗り捨ては自由となっています。

数年の間にシェアサイクルの運営会社の入れ替えはありましたが、現在の北京では黄、青、緑と三色があり、優勢を占めているのはフードデリバリープラットフォーム「美团」の黄色、電子商取引プラットフォーム「アリババ」系列「哈囉」の青色、車両呼び出しプラットフォーム「滴滴」系列の「青桔」の緑色の 3 社が、北京中心部の 6 つの区で約 80 万台を運用しています。北京交通発展研究院の資料によれば、2022 年の運用回数は約 10 億回ということです。さて、このような「緑色出行」の取り組みによって、再び北京に青い空が戻ることが期待されていますが…。

#### 参考文献

- 北京の 2022 年におけるシェア自転車利用回数が 9 億 6800 万回に、「人民網日本語版」2023 年 3 月 31 日 16:22 配信 <http://j.people.com.cn/n3/2023/0331/c94475-10230342.html> (2023 年 12 月 2 日最終閲覧)
- Qiaoyi Li, Brenda Goh (2023) 自動車産業の未来、「REUTERS」2023 年 9 月 8 日午後 7:41 (2023 年 11 月 23 日最終閲覧)



北京のシェアサイクル



自転車専用道路



整然と並べられた自転車

(つづく)  
校長 石飛 一吉